

令和元年度の取り組み

(1) 策定方針

野々市市第一次総合計画によるこれまでの取り組みの成果と課題を踏まえた上で、市民協働のまちづくりを加速化させるとともに、関係人口（※1）やSDGs（※2）といった新たな視点を交え、未来の野々市のために何に取り組むべきかを整理し、2022（令和4）年度からスタートする野々市市第二次総合計画を策定する。

策定にあたっては、野々市市第一次総合計画で掲げる市民協働のまちづくりの理念を反映し、市民と職員との協働で策定する。市民との協働での策定のために職員は、本市の現状の把握と未来の想定を的確に行い、意欲ある市民と対話を重ねることが必要であることから、職員研修を実施し、策定過程を通して政策及び施策の立案と遂行ができる職員の育成を図る。

- （※1）移住した「定住人口」でもなく観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。
- （※2）世界規模で持続可能な消費や生産、気候変動対策などに取り組むため、国連が定めた2030年までの持続可能な17の開発目標。

(2) 計画の名称及び計画期間

計画の名称： 野々市市第二次総合計画

計 画 期 間： 2022（令和4）年度から2031（令和13）年度までの10年間

(3) 3ヵ年（令和元～3年度）の策定スケジュール

令和元年度	令和2年度（※2）	令和3年度
策定体制の構築や基礎データの収集など、策定のための準備を進める。	各種会議や作業部会等を開催し、基本構想について検討する。	基本計画について検討する。次期総合計画（案）をまとめ、基本構想については議会へ上程し、議決を得る
（主な内容） ・意識調査及び基礎調査（※1） ・職員を対象としたワーキンググループの発足及び勉強会の開催	（主な内容） ・諮問 ・作業部会等各種会議の開催 ・基本構想（骨子・素案）の検討	（主な内容） ・基本計画（骨子・素案）の検討 ・総合計画（案）の作成 ・答申 ・パブリックコメント ・12月議会で上程

- （※1）調査の報告は資料5・6で説明
- （※2）令和2年度のスケジュールの詳細は資料2で説明

(4) 職員対象「まちづくり勉強会」の実施状況

若手職員及び中堅職員からなるワーキンググループを発足し、メンバー全22名を対象に勉強会を4回実施した。

第1回及び第2回は、現行の計画の概要や策定方針、本市の創生、策定の際のキーワードとなる関係人口やSDGsについて「知る機会」と位置付け、座学を中心に実施した。

第3回及び第4回ではグループワークを実施し、策定に関する疑問点や不安を共有するとともに、行政評価との関係や基本方針の読み解き方について学んだ。

	日時	内容
第1回	令和元年 10月28日	（1）ワーキンググループ任命書の交付 （2）野々市市第一次総合計画の概要及び行政評価の説明 （3）野々市市第二次総合計画の策定方針及び策定スケジュールの説明 （4）まちづくり勉強会の目的とスケジュール説明 （5）市長講演「職員参画と市民参画によるまちづくりへ期待すること」
第2回	令和元年 12月25日	（1）野々市市の地方創生について （2）関係人口について （3）SDGsについて （4）データハンドブックについて
第3回	令和2年 1月23日	＜総合計画のあり方に関するワークショップ＞ 総合計画策定についての戸惑いや疑問、不安などネガティブな感情を他の職員と共有した上で、総合計画の活用の仕方、日常の業務に即した、行動の指針として役立つ計画のあり方を考えた。  
第4回	令和2年 2月5日	＜より良い総合計画の策定と活用に向けて—行政評価・EBPMを視野に—＞ 総合計画策定の意義・必要性や、総合計画と行政評価との関係、成果指標設定のためのロジックの重要性等について整理した。
第5回	延期 （開催時期未定）	※当初は3月に実施を予定していたが講師の来訪が困難となり延期。 ＜ファシリテーション研修 ～絵心不要のグラフィックファシリテーション研修&作業部会ロールプレイ実践～＞ 作業部会やワークショップなど策定段階における市民との対話の現場を想定し、お互いが楽しみながら意見を聞き出しまとめていくコツや手法についてロールプレイ形式で学ぶ。